

第1回「国際的な交流拠点を目指して～Aichi Sky Expoオープンを契機に～(2019年10月31日開催)」の主な御提言に対する愛知県の対応

主な御提言（要旨）	愛知県の対応
<p><b>【Aichi Sky Expoの情報発信】</b></p> <p>展示場運営事業者として、展示場の知名度を上げて、イベント主催者にメリットを伝えていきたい。また、空港やホテルなどと連携し、イベント等を通じて泊まる、移動する、食べる、ツーリズムを味わってもらい、地域のブランディングをしていきたい。</p> <p>地域住民の間では魅力的なイベントが多く開催される場所であることを知らない人も多いので、地域の人々へのPRが必要である。</p>	<p>運営会社と連携し、様々なイベントの誘致に取り組んでおり、Aichi Sky Expoの開業以降、観光、福祉、スポーツなど様々な分野のイベントや、コンサート、握手会などが開催されました。2020年度以降も、様々な分野のイベントができる展示場であることを主催者に伝えていくとともに、引き続き、運営会社、地域の関係団体と連携し、一層のブランディングをしていくことで、展示場の知名度を上げていきたいと考えています。</p> <p>2019年9月に開催された大型イベント「常滑お笑いEXPO」、2020年1月には知多半島のグルメ等を発信する「愛知・知多半島マーケット」が開催され、地元の方々に数多く来場いただきました。今後も、運営会社と連携し、地域の方々に数多くお越しいただけるイベントの誘致や情報発信を行ってまいります。</p>
<p><b>【Aichi Sky Expoの情報共有】</b></p> <p>鉄道については、展示場で大きなイベントが開催される時は、一度に多くの人々が集中するため、情報を早く入手して鉄道の需要予測を立てたり、運営会社と連携して動線を検討するなど、混乱が生じないようにする必要があります。</p> <p>点というより面と面との戦いだと思っているので、オール愛知一体となってスクラムを組んで、情報交換をしながらMICE等を誘致できるような組織体が必要である。</p>	<p>大型催事が開催される場合は、運営会社が事前にイベント等主催者、名古屋鉄道、セントレア、空港警察署、愛知県などの関係機関を集め、来場人数、来場方法や時間帯、警備計画について合同会議を開催し、そこでの情報共有を踏まえて、名鉄の増結、増発などの対策を行っているところです。引き続き、関係機関と協力しながら混雑対策を行ってまいります。</p> <p>地域を挙げてAichi Sky Expoの需要創造を図っていくことを目的に、経済団体や交通関係事業者、ホテル関係団体、観光関係団体などが参画する「Aichi Sky Expo需要創造会議」を2019年3月に設置し、定期的な情報共有を行っているところです。引き続きAichi Sky Expoへの各種催事の誘致や地元としての開催支援、受入体制の構築に向けて、運営会社・県・関係機関との連携を強化してまいります。</p>
<p><b>【Aichi Sky Expoの活用方法】</b></p> <p>5Gも使えるようになるので、eスポーツのアジア地域大会を開催できるとよい。</p> <p>Aichi Sky Expoへの出展は食の大切さ、農業の大切さを子どもたちにも知ってもらいたい機会となる。例えば、Aichi Sky Expoの来場者に「なごやめし」や愛知の食を体験してもらい、動画クリエイターなどを通じて世界に発信してもらいたいような取組ができると効果的ではないか。</p>	<p>Aichi Sky Expoのオープニングイベント「AICHI IMPACT!2019」で開催したeスポーツ大会には、35,000の方々に御来場いただきました。また、2019年11月に開催されたeスポーツの世界大会「レインボーシックス」ではチケットが即日完売するなど、eスポーツに対する関心は高まってきていると考えています。5Gを導入した展示場は全国でAichi Sky Expoのみであるため、その利点を生かしながら、運営会社とともに、eスポーツ大会を呼び込んでいきたいと考えています。</p> <p>2020年6月27日（土）と6月28日（日）の2日間、Aichi Sky Expoにおいて「第15回食育推進全国大会in あいち」を開催します。本大会では、来場者に愛知の農林水産業への関心を持っていただくため、農業団体と連携して、会場内に食農教育ブースや県産農林水産物を紹介するブース等の設置を予定しています。</p>

主な御提言（要旨）	愛知県の対応
<p><b>【Aichi Sky Expoの活用方法（つづき）】</b></p> <p>JAグループだけでイベントを主催することはなかなか難しいが、いろいろな業界の皆様と連携を図り、そこに参画することは有意義なことだと考えているので、<b>愛知の農産物の魅力を世界に発信する起点にAichi Sky Expoを活用できるとよい。</b></p> <p>東京では、“日本の食品”輸出EXPO、アグリフードエキスポ、花のジャパンカップなどいろいろな<b>大きなイベント</b>が開かれている。そういったものを<b>誘致する</b>のも一つの方法。</p>	<p>花のジャパンカップ（一般社団法人JFTD主催）の2020年大会は、吹上ホール（名古屋市）での開催が決定しています。2021年以降の実施方針、計画等については、2020年4月以降に検討される予定です。</p> <p>今後、<b>農業団体と連携して、こうした大きなイベントの誘致や事業者の商談機会を創出する出展先の候補地とする</b>など、Aichi Sky Expoの活用方法について検討していきたいと考えています。</p>
<p><b>【Aichi Sky Expoを核とした地域の発展】</b></p> <p>空港にきた方は、知多半島に立ち寄らず、直接、名古屋、高山、東京に行ってしまうことが多いので、<b>知多半島に魅力を感じてもらうことが課題</b>である。</p> <p><b>常滑市は県のゲートウェイになるべき</b>である。常滑のものを提示するだけでなく<b>県全体のショーケース機能を持つような仕掛けが必要</b>である。</p> <p>インバウンドの方々に愛知で食と農を体験してもらうなど、<b>小さな取組が愛知の各所にあるので、それを線で結んでいく</b>。その体験を通じて愛知のリピーターになってもらうことが大切である。</p>	<p>運営会社と連携し、<b>Aichi Sky Expoのエントランスやモールで地域PR動画を放映したり、ラックに地域PRリーフレットを設置し、イベント等への来場者に対して知多半島の魅力をPRするよう努めています。</b>また、<b>施設内において地元産品について情報発信していくための新たなスペースの設置を検討</b>しており、より一層知多半島の魅力がPRできるよう努めていきます。</p> <p>空港島では、新規ホテルや商業施設の開業が相次ぐとともに、2019年9月にはセントレアの第2ターミナルが供用開始となるなど、Aichi Sky Expoの開業と合わせて、<b>交流・集客の拠点の形成が進められています。</b>今後、<b>Aichi Sky Expoへの各種催事の誘致を進めるとともに、空港島を中心として自動運転、ロボット、AIなどを活用した最先端の技術・サービスの導入を進めていきたい</b>と考えています。</p> <p>Aichi Sky Expoの<b>空港直結型である利点を生かして、海外の方にも楽しんでいただけるようなイベントを開催する</b>など、運営会社と連携し、インバウンドの呼び込みを図っているところです。今後、運営会社と連携し、食と農に関するイベントを始めとした様々なイベントを誘致するとともに、農業団体などの協力のもと、<b>愛知の食と農を体験できるコースづくりの可能性等について検討</b>していきます。</p>
<p><b>【eスポーツについて】</b></p> <p><b>2026年のアジア競技大会ではeスポーツが種目の一つとして有力である</b>と言われており、eスポーツ団体もそれに向けて活動をしている。</p>	<p><b>2018年にジャカルタ・パレンバンで開催されたアジア競技大会では、eスポーツが、デモンストレーション競技として実施</b>されました。2026年に愛知・名古屋で開催するアジア競技大会の競技プログラムの決め方については、開催都市契約において定めており、先催大会である<b>2022年の杭州アジア競技大会の状況なども注視しながら、検討</b>していきます。</p>